

第百二聖詠 我が霊よ主を讃め揚げよ

作曲：大主教ニコノル

わがたましいよ主を^ほ讃めあげよ 主よなんじはあがめほめ

らる わがたましいよ主を^ほ讃めあげよ わがこころよそのせい

なる^な名を *p* ほめあげよ わがたましいよ主を^ほ讃めあげよ

そのすべての^{おん}恩をわするるなか れ ^か彼れはなんじがすべての

ふほう
不法をゆるし なんじがすべてのやまいをいやす

mf
なんじのいのちをほろびより ^す救く い あわれみとめぐみを
mf p

mf
なんじにこうむらせ よきものにて爾 ^{なんじ}ののぞみに

あかしむ なんじがわか げることわしのごとく

わがたましいよ主を讃^ほめあげよ わがこころよその

せいなる^な名を ほめあげよ 主よなんじはあがめほめらる

ユックリ rit.

王日のアンティフォン
《第二アンティフォン》

(3)

第百四十五聖詠

わがたま しいや主をほめあげよ われ^{いのち}生命あるうち

わがかみにうたわん ぼくはくを たのむなかれ

すくあたひとこたの 救う能わざる人の子を恃むなかれ か^{いきた}れ息絶ゆればつちにかえり

かれが^{はか}謀る所は^{ところ}その日に消ゆ イア コーフのかみに

(4)

たす ひと
佑けらるる人はさいわいなり

しゅ てんち うみ
主か み天地と海と

そのうちにあるものをつくり

ながく ^{しんじつ} 眞実をまもり

せめら

るる者 ^{もの} のためにさばきをなし

う ^{もの} りる者に

かて あた

糧を与うる主をたのむ人はさいわいなり

ひと

主は ^{めしうど} 囚人をとき

(5)

めしいの目をひらき かがめられし者を起こし義人をあ いす

主は旅人を護り^{みなしご}孤子とやもめをたすけ ^{ふけんしゃ}不虔者の途を^{みち}くつがえす

主は永遠に王とならん シオンよ爾の神は世々に王とならん

光榮は父と子と聖神に帰すいまも何時も世々にアミン

● ※ 単音聖歌譜 p.5 の「かみの独生の子…」へ続く
(赤木)

ヘルヴィムの歌(一番)

作曲：ボルトニャンスキー
訳：ヤコフ・チハイ

1.

われら つつしんで ヘルヴィムに のっとり

Detailed description: This system contains the first line of music. It features a treble clef staff with a key signature of one flat (B-flat) and a common time signature. The melody is written in a simple, folk-like style. Below the treble staff is a bass staff with a bass clef, providing a harmonic accompaniment. The lyrics are written in Japanese characters between the two staves.

2.

ヘルヴィムに のっとり せい^{さん}のうたを

Detailed description: This system contains the second line of music. It continues the melody and accompaniment from the first system. The lyrics are written in Japanese characters. A small 'さん' (san) is written above the character '三' (three) in the second measure of this line.

いのちをほどこすの せい^{さん}しゃ^{しゃ}に たてまつりて

Detailed description: This system contains the third line of music. The melody and accompaniment continue. The lyrics are written in Japanese characters. Small 'さん' (san) and 'しゃ' (sha) are written above the characters '三' (three) and '者' (person) respectively in the second measure of this line.

3.

このよのつとめをしりぞくべし しりぞくべし

Detailed description: This system contains the fourth line of music. The melody and accompaniment continue. The lyrics are written in Japanese characters. The system ends with a double bar line and a fermata over the final note.

ア ミン か み の な み い る つ か い は 見 え ず し て

に な い た て ま つ る 万 ^{ぼん} ぶ つ の つ か さ を お い た だ け ば な り

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

天主經 (3)

司 主宰や、我等に、^{いさみ}勇を以って、^え罪を獲ずして、^{あえ}敢て、^{かみ}爾天の神・父を呼びて言うを賜え

ケドロフ 作曲
テイト加藤直四郎 編曲

pp

天にいますわれ等のちちや

ねがわくはなんじの名はせいとせられ

poco allargando *pp a tempo*

なんじのくには来たり なんじのむねは天に

おこなわるるがごとく地にもおこなわれん

cresc. *allargando*

我が日用の糧^{かて}を今日われ等^{こんにち}にあたえたまえ

われ等においめあるものをわれ等ゆるすがごとく

われ等のおいめをゆるしたまえ

p *p*

われ等をいざないにみちびかず

pp *rit.*

なおわれ等を凶あくよりすくいたまえ

p. 73へ